

「神は人を分け隔てなさない」

2024年02月15日

彼らに言った。「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、訪問したりすることは、許されていません。けれども、神は私に、どんな人をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、お示しになりました。それで、お招きを受けたとき、ためらわずに来たのです。お尋ねしますが、なぜ招いてくださったのですか。」（使徒10：28～29）

そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。どの民族の人であっても、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。」（使徒10：34～35）

ペトロはローマの百人隊長コルネリウスの招きを受け、何人かの兄弟たちを連れ、カイサリアに向かった。次の日、カイサリアのコルネリウスの家に着いた。彼は親類や親しい友人を集めて、待っていた。ペトロが中に入ろうとすると、コルネリウスは迎えに出て、ペトロの足元にひれ伏して拝んだ。彼は敬意を込め、あたかも神を迎えるような態度で迎えた。しかし、ペトロは彼に「お立ちください。私も同じ人間です」と言って、起こした。

家には大勢の人が集まっていたので、彼らに「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人と交際したり、訪問したりすることは、許されていません。けれども、神は私に、どんな人をも清くないとか、汚れているとか言ってはならないと、お示しになりました。それで、お招きを受けたとき、ためらわずに来たのです。ユダヤ人は自民族を神の民として誇り、他民族は神を知らない汚れた異邦人として軽蔑していた。だから、異邦人とは交際をしないという態度を取っていた。しかしペトロは、幻で、清い物と汚れた物の分別はなく、「神が清めた物を清くないなど言ってはならない」と示されたので、あなたがた異邦人の招きを受けた時、浄不浄の戒律を超えて来たと言っている。

ペトロは「なぜ招いてくださったのですか」と尋ねると、コルネリウスは答えた。「輝く衣を着た天使が現れ、あなたの祈りは聞かれ、施しは神の前で覚えられた。ヤッファに人を送り、皮なめし職人シモンの家に泊まっているペトロを招きなさいと言ったので、人を送ったのですが、よくお出でくださいました。私たちは皆、あなたが命じられることを残らず聞こうとして、神の前に集まっている」と。

そこでペトロは口を開き、まず「神は人を分け隔てなさないことが、よく分かりました。どんな民族の人であっても、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです」と言った。ペトロの第一のメッセージは「神は人を分け隔てなさない」であった。これが異教徒への福音宣教の第一歩であった。ペトロは続けて、主イエスに現わされた罪の赦しの出来事を語った。神はイエス・キリストを通して御言葉を送り、平和を告げ知らせてくださった。このイエスこそが全ての人の主である。この方は神から聖霊と力を注がれ、方々を巡り歩いて善い行いをし、悪魔に苦しめられている人たちを癒やされた。私たちはユダヤ地方とエルサレムでなされた全てを見聞きした証人である。人々は、このイエスを十字架に掛けて殺したが、神は三日目に復活させ、人々の前に現わされた。しかし、それは民全体に対してではなく、神に選ばれた証人、食事を共にした私たちに対してであった。神が主イエスは生きている者と死んだ者との審判者として神が定めた者であることを宣べ伝えよと、私たちに命じられた。預言者たちも皆、主イエスを信じる者は誰でも罪の赦しが受けられる、と証ししている。ペトロは、初代教会のケリユグマ（使信）を丁寧な説き明かした。